



13 ボンファイヤー

青森県立種差少年自然の家



○活動の概要○

たき火を囲みながら、語り合ったり、レクリエーションを楽しんだりします。

1 ねらい

自然の中でたき火を囲みながら、友情と協同の精神を養い、交流を深めさせます。
(小学校 特別活動 中学校 特別活動)

2 場所・人数・期間・時間

- ① 場所 第一営火場、第二営火場
- 人数 200人以内（1グループ8人程度）
- ② 期間 通年
- ③ 時間 1～1時間30分



3 職員の支援について

活動支援に入ることはありません。

4 準備物

区分	準備物	備考
団体	・緊急車両 ・マッチ、新聞紙（焚き付け用）	
個人	・野外活動に適した服装（長袖・長ズボン） ・タオル、軍手、帽子 ※必要に応じて雨具、虫よけスプレー	
自然の家	・一斗缶 ・たき火台 ・火バサミ ・チャッカマン ・第二営火場水道の水栓ハンドル ・無線機	<ul style="list-style-type: none"> } 第1、第2営火場それぞれにあります ・会議室にあります。 } 事務室にあります。
斡旋可能	・まき	・1束200円

5 引率者の役割分担

係名	役割
代表責任者	・全体の掌握、指揮、連絡にあたる。
準備・後始末係	・準備を行う。翌朝、灰の後始末を行う。
救護係	・緊急時の救護、搬送にあたる。

6 活動の流れ

- ① 活動説明（代表責任者）
- ② たき火を囲んで交流を深める
- ③ 消火
- ④ 翌朝片づけ

7 その他

- ・終了後は火災防止のため水で完全消火をし、コンクリート内に集めておいてください。
- ・灰の後始末は、翌朝行ってください。
- ・ナイトハイクとセットで行うこともできます。

《資料》ボンファイヤーのやり方

＝実施方法＝

- ① 全体で一つの火を囲み実施
- ② 班ごとにたき火を作り実施
- ③ 全体の火を班ごとに分火して実施
- ④ 野外炊事の残り火を利用して実施
- ⑤ 「火おこし」プログラムでおこした火を種火として使用し実施 など

＝内容＝

- ① 子どもたちの語らいを中心に
たき火を囲んでゆっくりと夜を過ごす。(全体で・班ごとに)
◎集合一点火—語らい—まとめ—消火—解散—後始末
◎点火—自由集合—語らい—自由解散—消火—後始末
- ② 自然を感じ取らせることを中心に(ゆったりとした時間設定で)
◎星座観察 神話 星の話
◎野生動物の話
- ③ 火と生活の関係に着目して
◎野外炊事→ボンファイヤー
- ④ 夜の神秘性を感じ取らせると同時に野外生活の火に着目して
◎野外炊事→ボンファイヤー→ナイトハイク→ボンファイヤー
- ⑤ テーマにそって考えるひとときとして
◎全体の火(テーマの説明) →班ごとの火(班での語らい) →全体の火(まとめ)

＝展開例 1＝

- ①引率者が営火場の中央に火をおこす。(たき火台を利用)
- ②火について話をする。
- ③班ごとに分かれて過ごす。(班ごとの火をつくる)
- ④各班の火を中央に集め、中央の火で他の班と交流する。
- ⑤班でどんな話をしたか、発表しあう。
- ⑥引率者がまとめの話をする。
- ⑦片付けをして、終了する。

＝展開例 2＝

- ①引率者が営火場の中央に火をおこす。(たき火台を利用)
- ②火について話をする。
- ③ナイトハイクのねらいや注意事項を確認し、班ごとに出発する。
- ④戻ってきた順に中央の火を囲み、交流を深める。
- ⑤全員が戻って来たことを確認し、引率者がまとめの話をする。
- ⑥片付けをして、終了する。

＝展開例 3＝

- ①引率者が営火場の中央に火をおこす。(たき火台を利用)
- ②火について話をする。
- ③交歓のつどい(歌、ゲーム、ダンス等)
- ④引率者がまとめの話をする。
- ⑤片付けをして、終了する。

キャンプファイヤーを実施する場合には

普通行われるキャンプファイヤーは、大量のまきや灯油が使われ、しかも、時間等の関係で全てが燃えきらずに終わってしまうのが現状です。

自然の家でも以下のことを守っていただければ、キャンプファイヤーを実施することができます。

- ・自分たちで木材を用意すること。
- ・21時までに完全消火できること。
- ・燃え残った木材は持ち帰ること。
- ・トーチ棒は持参すること。

